

## 多収でいもち病に強い飼料用米新品種候補「ひなたみのり」の育成

「ひなたみのり」は「ミズホチカラ」より多収で、いもち病ほ場抵抗性を持つ。

## 背景・目的

- 県内で飼料用米として広く作付けされている「ミズホチカラ」は、いもち病真性抵抗性によりいもち病に強いとされていますが、近年、現地でのいもち病の発病が多く、減収しています。
- そこで、いもち病ほ場抵抗性を持つ飼料用米品種を育成しました。

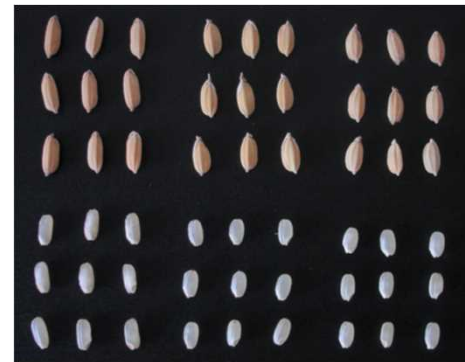
## 成果の内容

- 「ひなたみのり」は、多収で縞葉枯抵抗性遺伝子 *Stvb-i* を持つ「くらのぬし」を母に、多収でいもち病ほ場抵抗性遺伝子 *Pi39* を持つ「み系358」を父として交配した粳系統です。
- 出穂期・成熟期は「ミズホチカラ」と同程度で、稈長・穂長は長く、穂数は少なく、千粒重は大きいです。収量は、「ミズホチカラ」より多収で、品質は同程度です。粃・玄米の大きさや品質から主食用品種との識別は容易です（表1、図1）。葉いもち及び穂いもちほ場抵抗性は“強”です（表2）。

表1 「ひなたみのり」の特性概要

施肥量	標肥 (N5-3)			多肥 (N7-3)		
	2019~2021		2019	2021		2021
試験期間	2019~2021		2019	2021		2021
品種名・系統名	ひなたみのり	ヒノヒカリ	ミズホチカラ	ひなたみのり	ヒノヒカリ	ミズホチカラ
早晩生	晩生の晩	中生の中	晩生の晩	晩生の晩	中生の中	晩生の晩
草型	穂重型	偏穂重型	偏穂重型	穂重型	偏穂重型	偏穂重型
出穂期(月・日)	8.27	8.22	8.31	9.2	8.25	9.7
成熟期(月・日)	10.20	9.29	10.23	10.20	10.1	10.18
稈長(cm)	97.9	86.2	89.9	97.8	92.8	86.3
穂長(cm)	24.6	19.9	20.4	25.4	18.8	20.4
穂数(本/m <sup>2</sup> )	218	341	271	251	440	431
耐倒伏性	強	中	強	強	中	やや強
穂発芽性	難	難	やや易	難	難	難
脱粒性	難	難	難	難	難	難
精糲重(kg/a)	-	-	-	101.3	-	81.3
精玄米重(kg/a)	68.3	51.4	40.0	77.2	61.0	63.0
同上標準率(%)	133	100	78	127	100	103
玄米千粒重(g)	24.1	21.5	22.7	27.1	21.3	22.2
検査等級 <sup>1)</sup>	9.8	6.7	10.0	10.0	5.0	4.0

1) 1 (1等上) ~10 (規格外) の10段階評価



ひなたみのり ミズホチカラ ヒノヒカリ  
図1：粃・玄米

表2 いもち病ほ場抵抗性

品種名 系統名	葉いもち			穂いもち
	2019	2020	2021	2021
ひなたみのり	◎	◎	◎	◎
ミズホチカラ	◎	◎	◎	-
ヒノヒカリ	△	△	×	×

◎：強、○：やや強、△：中、×：やや弱

## 成果の活用方法(又は期待される効果)

- 県内全域、特に主食用水稲との作期分散が必要な大規模経営体  
早期水稲及び普通期水稲 330ha  
「ミズホチカラ」に代えて県内の飼料用米用品種として活用します。
- 地域段階で展示ほを設置し、普及に向けた知見を収集します。  
飼料用米栽培マニュアル等を通じて、技術の普及を図ります。

## 留意点

- 白葉枯病には弱いので常発地での作付は避けてください。
- 2023年から早期・普通期栽培で、施肥法や栽植密度を検討します。

関連研究成果カード：2022年度前期 番号4、関連事業名：生産者・実需者ニーズのワンランク上を目指したランクアップ<sup>®</sup> 育種(県単)、研究期間：2020~2021年度